沙羅双樹(シャラの木)

「祗園精舎の鐘の声　諸行無常の響きあり　沙羅双樹の花の色　盛者必滅の理をあらはす」平家物語の一節。

学名 Shorea robusta

科・属名　　フタバガキ科・コディアエウム属（ショレア属）

英名 Sal Tree

原産地 インド

開花期 5～7月

花の色 白、クリーム

別名 沙羅双樹（サラソウジュ・シャラソウジュ）

沙羅の木（シャラノキ）

5～7月には、枝の先端に白やクリーム色の小さな花を咲かせます。寒さに弱いことから、日本では植物園などの温室でしか見ることができません。開花するのはとてもめずらしいことで、ジャスミンのような香りがするとされています。

沙羅双樹＝夏椿のことではありません。沙羅双樹は、寒さに弱く、日本で育てることはできないのです。

では、平家物語の一節に読まれている沙羅双樹とは何の木のことなのでしょう。実は、沙羅双樹の代用として、日本では「夏椿」が植えられていました。どうして夏椿が代用とされたかという理由には、1日しか花を咲かせない性質に人生の儚さが感じられるからや、葉っぱが沙羅双樹と似ているからなど、諸説あります。

シェアハウスしゃらの樹　（意味を考えると少し儚げ・・）

やつだハウス

谷田会　綾友会　興和会　コーセイ・・・

YA-SA-NA-KOハウス

やさなこはうす

RI-YA-KO-KOハウス

シェアハウス虹彩

シェアハウスにじいろ

虹彩はうす

にじいろハウス